増毛山道と濃昼（ごきびる）山道
～近代化に先駆した開拓遺産とその再生～

開削から160年余の歳月を経て、３ｍを越すクマイザサの中に埋没し、記憶の彼方からも消え去ろうとしていた「増毛山道と濃昼山道」。近世北海道の開拓遺産として、大きな意義があると確信した地域住民を中心に、時には山中泊をしながら復元行動を開始してから約10年、往時の姿を残す良好な状態で遂に2016年に全線復元した。北海道に残された山道の中でも、北海道の名付け親である松浦武四郎は「蝦夷地第一の出来栄え」と評した希少な山道であり、近代化に果たした歴史的役割や機能を体感できる遺構。